

平成25年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 学習指導と進路指導の充実を図る。 個に応じた指導による基礎・基本の定着 確かな学力の増進 普通・芸術・外国語の各コースの特性を活かした進路指導の充実	① 年間を通して校内公開授業とし、授業研究を充実させて授業改善を促進する。また、年2回全教科共通のテーマで研究協議会を持ち、協議内容を全職員で共有する。	教務課 各教科	他の教員の授業を参観した回数が年間5回以上の教員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B 教職員アンケート 5回以上の参観 9月 36.9% 1月末 80.0%	事後調査では5回以上93%となり、年度末まで継続して参観が行われた。7月の総合訪問や年2回の奨励期間を設けたことで意識高揚につながった。また、初任者研修を初めとする各種研修への参加により、授業研究としての公開授業が日常的になりつつある。研究授業の前後で教科を中心に話し合う機会も増加し、全体としての授業力向上へとつながっている。教務課を中心に取り組んでいる「授業での言語活動の充実」も相まって、グループ学習や共同学習の工夫も随所に見られるようになった。
	② 家庭での学習習慣の定着をねらいとする効果的な課題を与え、家庭学習時間を増加させる。	教務課 各学年 各教科	課題の提出率が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	D 生徒アンケート 9月 69.6% 2月 69.8%	提出の意識は全学年ともかなりあるものの、クラスによってのばらつきがある。個人への意識付けだけでなく担任及び学年団との連携の上で指導を一層強化する必要がある。また、予習を前提とした授業を展開する上で課題への取り組みは不可欠であり、課題そのものだけでなく授業との関連、評価との関連を見直して来年度の改善に繋げたい。
	③ キャリア教育の充実とともに目標を明確化させ、有意義な高校生活を送るよう教育活動を行う。	進路指導課 各学年	本校でのキャリア教育が意義あるものとなっていると答える生徒の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	B 生徒アンケート 9月 75.8% 2月 82.0%	3年間の進路指導シラバスに沿ってキャリア教育を体系化して実践した。本年度は1年生より「進路ノート」を使用し、自己理解や仕事研究などキャリア教育の早期スタートを行い、進路情報の提供も十分に行われた。また、2年生もインターンシップを初め様々な取り組みにより大幅に意識が向上している。来年度は普通コースの新3コースにあわせたガイダンス等での工夫や生徒個々との面談時間の確保などを行っていききたい。
	④ 個人面談等を効果的に活用し、進路目標の明確な設定を図る。	進路指導課 各学年 各教科	具体的な進路目標を持っている生徒の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	B 生徒アンケート 9月 75.4% 2月 75.9%	上記の③項目と関連し、各学年ともに、進路志望やコース選択に向けて、進路指導課との連携のもとで面談を数多く行い、明確で高い進路目標の設定を指導してきた。昨年度より数ポイントの上昇であるが、手応えとしてはそれ以上のものが感じ取れる。ただし、まだ自分の志望が現実味を持たない生徒も少なからずおり、継続した丁寧な取り組みを続けたい。
学校関係者評価委員会の評価	研究授業や互見授業の取り組みは十分評価できるが、それぞれの授業は個々の教師が一人で作り上げるのではなく、教科全員で作りに上げるものである。空き部屋を区切ったりして教科の部屋を作り、遠慮なく話し合う機会を持ちたい。その場所へ生徒が来るようになれば格段に効果が増す。生徒は先生の影響で進路を決めるという一面も持つ。今後とも進路指導に当たってほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	教師は授業が生命線であり、常に向上を目指して組織的に取り組む。ICTの活用やグループ学習・共同学習を今年以上に充実させたい。研究授業だけでなく前後の教科内での協議に力を入れて体系的に取り組む。家庭学習については、その方法や方針について保護者向けに事前にわかりやすく説明し、一層の協力を仰ぎたい。				
2 基本的な生活習慣や倫理観を確立し、豊かな人間性や社会性を育成する。 遅刻や欠席の減 きちんとした言葉遣いや挨拶などの礼儀指導 端正な服装容儀 規範意識の高揚 ボランティア精神や環境保護の精神の涵養	① 家庭との連携・協力を図りながら、服装、頭髪、化粧などの身だしなみ指導を全職員で行う。	生徒課 各学年	服装容儀について生徒心得を守っていると答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	A 生徒アンケート 7月 91.5% 2月 93.4%	生徒課を中心となり、毎朝の登校指導や学年集会で全員が共通理解のもと積極的に取り組み、校則やルールの遵守を心掛ける生徒も多くなってきている。各学年団も生徒課と密接に連絡を取り、軽微な兆候を捉えては事前の指導を心掛けている。徹底できるまで地道な指導を継続していく。
	② 全教職員で協力し、遅刻の減少を目指す。	生徒課 各学年	年間の遅刻者の延べ人数が A 563人以下である B 613人以下である C 663人未満である D 663人以上である	A 3月末現在531件 (昨年は663件)	遅刻防止が学校教育の取り組みの中で大きな位置を占めるという共通認識のもと全職員が精力的に取り組んだ成果であろう。来年度以降も更なる減少にむけて学校が一丸となって取り組み、生徒一人ひとりが時間の大切さを肝に銘じられるよう指導していききたい。
	③ 人間としての在り方・生き方の自覚を深める教育を実施する。	教育相談室 各学年 各教科	構成的グループエンカウンターやアサーション等を通して、人と人との接し方について理解し、人間関係づくりに役だったと考える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	B 生徒アンケート 7月 68.1% 2月 70.8%	4月にエンカウンターを実施し、その後はクラスの状況を見ながら教育相談室と連携し随時実施する予定であったが、各クラスとも人間関係のトラブルが少なく落ち着いた状況であり、計画的に実施する必要性がなかった。来年度は年度当初にロング・ホームの年間計画に入れて時間を確保するなどの対処を考えたい。
	④ 地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開する。	生徒課 各学年	近隣地域での各種ボランティア活動に参加する生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	D 生徒アンケート 7月 36.9% 2月 42.7%	例年行われている地域清掃をボランティアの区分から外したため、学校での機会設定がなかったことで、低い割合となってしまった。実際は芸術コースでの老人福祉施設訪問コンサートや児童館・図書館での似顔絵イベント、JRCでの定期的な施設訪問など、学校の特色を活かした取り組みも行っている。来年度は学校側である程度の枠組みを設定した上で生徒が創意工夫して意欲的に活動できる働きかけを行っていききたい。

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
	⑤ 「学校版環境ISO」の取得校にふさわしいエコ活動を展開し、CO <sub>2</sub> 排出の削減等を目指すとともに、環境保護の精神を培う。	保健環境課	エコ活動に積極的に取り組んだと答える生徒・教職員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B 7月アンケート 生徒78% 教職員98% 2月アンケート 生徒79% 教職員100% 全体で 81%	生徒の意識は学年が進むごとと回を重ねるごとに向上しているが、日常の様子からは意識の低い行動も見受けられる。紙のリサイクルやゴミの分別は個人で取り組みが容易であるが、節電に関しては学校全体の意識改革が必要である。職員による指導方法や内容を更に強化し、生徒の意識と行動の改善に努める。
学校関係者評価委員会の評価	先生と生徒のボランティアの受け止め方が違っているのではないかと。ボランティアは人間の生き方に関わる問題であり、それ自体をしっかりと考えさせる機会を持つことが大切だ。挨拶や遅刻をしないという生活習慣や服装容儀は随分とよくなってきた。次はスマートフォンアプリの「ライン」の危険性からの防衛法に率先して取り組んでいくべきだろう。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	単に学校がボランティアを企画するのではなく、いろいろな集いや講演をして日々のクラスルームで折に触れてボランティアについて話す機会を持つ。生活習慣については現状に満足せずさらなる高みを目指して取り組む。「ライン」等のネットトラブルについては、その有害性や恐ろしさを外部の方を交えて継続して訴え続ける予定である。				
3 時代を生きぬく、積極的に活力のある人間の育成を図る。 部活動の活性化 生徒会活動の活性化 健やかでたくましい心と体の育成	① 1年生には全員部活動に参加するように促すなど、部活動を活性化させる。	生徒課 各学年	部活動に加入している生徒で、実際に活動している生徒の割合が A 90%以上である B 85%以上である C 80%以上である D 80%未満である	A 生徒課生徒会の調査で 7月時 97.0%、 2月時 97.6%	1年生は原則全員部活動参加という方針の下、入学当初の各部見学後早めの部活登録を促した。1年現在の部活加入状況は2月現在で87%と高い割合を保っている。退部した生徒の内、次の部活動を行っていないものに関しては、担任等が引率して各部を見学させたうえで新たな入部を促すなどの取り組みを行っている。次年度は学年、各部の顧問、生徒会が連携協力して更に活性化させたい。
	② 体力測定記録の更新を意識づけ、全学年を通じた体力の向上を目指す。	体育科	5月、1月のタイムを比較して、向上したものの割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	B 1月の体育科集計で 男子 75.2% 女子 70.9% 全体 72.7%	自己記録向上を目指すという明確な目標のもと、生徒個々が意欲的に取り組み、概ね満足のいく結果となった。日々の体育の授業に取り組む姿も活発になってきているので今後も継続して取り組み、次年度はA評価を目指したい。
	③ 生徒一人ひとりが充実感・達成感の得られる生徒会行事を企画・運営する。	生徒課 各学年	行事終了後のアンケート調査で、充実感・達成感があったと答える生徒の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B 各行事後に調査したアンケート結果の総合は 81.2%	新入生歓迎会、スポーツ大会、辰巳祭等での事後調査の結果では80%を越えており、概ね各行事とも充実感・達成感を得ているといえる。一方アンケートで満足していると回答しなかった生徒の中で、「あまり関わっていない」と回答するものが見られたことから、生徒全員が活動の場を与えられる行事のあり方について再度検討を行った上で次年度の行事企画・運営を行う。
学校関係者評価委員会の評価	辰巳祭(文化祭)ではPTAを初めとして、地域の方々や同窓会、近隣の大学まで参加して大変充実した行事となっている。また、新春頑張ろう会では生徒と保護者の距離が大変近く感じられる。生徒の満足感以上に外部からの参加者は満足している。ろう学校を招いての「りんご狩り」が新聞に載っていた。大変素晴らしいことであり、ぜひ継続してほしい				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	年々部活動は活性化されてきた。ライフル射撃部や美術部等、全国大会常連の部だけでなく、全ての部が目標・目的を持って生徒が主体的に活動ができるように指導を重ねて更なる活性化を目指したい。各種の行事については外部からの温かい言葉をいただいて一層の励みとしたい。「りんご狩り」による他校種間交流など、地道な取り組みが高く評価されておりありがたい。				
4 生徒・保護者・地域から信頼される、開かれた学校づくりに努める。 広報活動の充実 開かれた学校づくりの取り組みの推進	① 地域及び小中学校等との交流活動や各種の情報紙等による広報活動を通して、本校の教育活動への理解と協力を促進する。	総務課 各コース	各種の交流活動が活発であり、その広報活動を通して学校の取り組みがよくわかると答える保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B 保護者アンケート 7月 90.7% 12月 87.6%	数多くの行事やイベントをPTAを初めとして、同窓会や地域の方々のご協力をいただき盛大に行うことができ、大変感謝している。また、アートフェスティバルなどの大々的な交流、似顔絵や訪問コンサートなどの地域及び小中学校との交流などに取り組んできた。その都度、ポスターや案内パンフレット等を作成し全生徒に配布している。ただし、若干時期が迫ってから配布したケースもあり計画性のある取り組みとしたい。
	② ホームページを刷新し、更新を定期的に行い、地域や小中学校等との交流や学校行事など、本校の特色ある教育活動を積極的に発信する。	総務課 各コース	ホームページを通して学校の交流活動や教育活動に関する情報の発信が適切に行われ、わかりやすいと答える保護者の割合が A 80%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	D 保護者アンケート 7月 78.2% 12月 69.2%	ホームページが更新されず、学校の取り組みをタイムリーに発信できなかった。現在のシステムでは内容を書き換えることができる者が担当者に限られており、随時更新することが困難であり、次年度に向けてシステム自体を新しくし、だれもがホームページの更新を行えるように全面変更を行うべく取り組んでいる。来年度の完全リニューアルが楽しみである。
学校関係者評価委員会の評価	辰巳アートフェスティバルを初めとして様々な学校の取り組みについて、昨年以上にPRに力を入れていることが見て取れる。30周年に向けて一層の取り組みを期待している。インターネット社会ではホームページでの情報発信は必須であり、最も重要なツールである。一刻も早い更新に尽力すべきだ。また、マスメディアを含め外部団体の力も活用してほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	各種パンフレットは大変評価が高く、今後も適宜更新して発行したい。30周年記念事業にむけて同窓会とタイアップして、いろいろな方向から学校のPR活動を繰り広げたい。現在ホームページの全面刷新にむけて取り組んでおり、1日も早いリニューアルを目指したい。特に新しい教育課程が来年度本格的に動き出すことから、インターネット上でもより適切でわかりやすい広報に努めたい。また、保護者向けのメール配信を充実させ、学校を一層身近に感じていただけるようにしたい。				